

第5節 3日目：10月13日（水）：海尻～清里 雨／曇り

2021年10月13日（水）雨／曇り、小海線の旅の3日目は、海尻駅から清里駅までの営業キロ24.6kmに挑戦する。本日は昨日に比べ、営業キロが4.8km短いですが、リュックを背負っての山登りでかつ道筋が複雑。しかも雨による悪天候の中歩くことになった。2000年5月からのウォーキングを始めて、一番悪条件が重なった一日であつたように思う。その悪条件の中で、何とか踏破したいものだと気合を入れて臨む。本日のコースは、ネットで事前にいつもより多く勉強した。それ故、”上手く作動すれば、必ず踏破はできる”と自問自答する。昨日と同じダイヤで海尻駅まで移動する。



※東横インチェックアウト、佐久平駅



※佐久平駅待合室、列車の中の小海線案内図



※海尻駅、JR 線跨ぐ

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。なお、本日はジョギングなしで臨む。

海尻 (8:15) ~ 佐久海ノ口 (9:07) ~ 佐久広瀬 (11:00) ~ 信濃川上 (12:46)
 ~ 野辺山 (15:03) ~ 清里 (16:54)

①8時23分、JR線を跨ぎ、鉄道の上側となる。8時30分、万歩計で98歩ある湯川を渡る。8時35分、4台の富士急行バスと対面する。恐らく、修学旅行の団体だろう。8時52分、道路に沿って走る小諸方面の列車と対面する。9時7分、佐久海ノ口駅に到着する。この辺りで雨が降り出す。9時12分、南牧村役場前を通過。9時18分、佐久甲州街道踏切を横切って、鉄道の右側となる。9時21分、中央公民館の界隈にある神社前で本日の安全を祈願する。



※湯川、小諸方面に向かう列車と対面



※佐久海ノ口駅



※南牧村役場、佐久甲州街道踏切、本日の安全を祈願

②9時31分、千曲川に沿って歩く。9時37分、108歩ある杣添（そまぞね）橋を通過する。川上15km、葦崎44kmと記した道路標識前を通過。雨脚が強くなる。しかも道筋が複雑な川上まで15kmもある。雨の中、無事辿り付けるだろうか不安となる。少し行った先で県道68号（梓山・海ノ口線／南牧村海ノ口）交差点（10時6分）に差し掛かり、元気が出て来る。



※千曲川、杣添橋、川上15kmの標識で元気消滅！！



※元気をもらった県道68号線の道路標識



※佐久広瀬駅への路



※広瀬公民館、佐久広瀬駅への路、特に佐久広瀬駅（もう少しで未踏破になりそうであった）

本日の歩きで、一番用心すべき地点であった。雨も小降りになり曇り空となる。10時21分、先程まで歩いた国道が前方にあった。上り山道を淡々と歩く。10時27分、広瀬という標識を見つけ、自分が誤った道筋を歩いていないことを確認できホットする。歩いても歩いても山道が続く。10時39分、広瀬公民館手前で線路が近くにあるか否かで右往左往する。通行人はいなかったため、信号で止まった車のドライバーの方に、佐久広瀬駅の道筋を教えて頂く。「もう少し行った先に駅があります」と教えて頂く。道路から200m位下がったところに佐久広瀬駅（11時）があった。



※佐久広瀬駅、トンネルを出ると佐久広瀬駅、信濃川上駅方面



※佐久広瀬駅

③11時3分、広瀬橋（千曲川）を渡る。11時34分、JR線下を潜り、鉄道の左側となる。ここから再度山登りとなる。11時40分、上着を脱ぐ。11時52分、峠に差し掛かる。しかし、ここから、民家に続く地点までに随分遠かった。しかも、先日の大雨で、橋が流されたらしく、前方にある千曲川を中々渡れず。前方に信濃川上駅があったと思われる。千曲川に沿って、1km位迂回を余儀なくされた。やっと12時31分、万歩計で150歩ある樋沢新田橋を渡ることができる。12時38分、御所平観音前を通過。この辺りの地名は川上村樋沢とあった。12時46分、やっと信濃川上駅に到着。



※信濃川上駅への路



※鉄道下を潜る、信濃川上駅への路



※山道を下る、中々民家エリアには合流できず、千曲川沿いを橋を求めて迂回



※樋沢新田橋、御所平観音



※信濃川上駅



※信濃川上駅



※川上駅前の詩

④12時54分、右折し、野辺山、清里方面の道筋に方向転換する。13時10分、JR下を潜り、鉄道の右側となる。13時30分、高原を歩く。13時55分、川上森山踏切を横切った先で雨となる。暫く歩くと本降りとなる。雨の中、高原を淡々と歩く。歩いても歩いても民家見えず。肌寒くなり、上着を着ようと思うが、中々民家の軒下が見つけられない。やっと、14時36分、雨宿りする場所を見つけ、上着を着る。寒くなった体を多少温めてくれる。やっと民家が見えて来る。14時58分、観光踏切を横切り、鉄道の右側を歩いた先に野辺山駅（15時3分）があった。この駅は、小海線で標高（1,345.67m）があり、JR駅舎で最も高い駅舎とあった。雨が止み、瞬間的に少し薄日がさす。



※野辺山・清里駅への路



※川上森山踏切、トラクター、牛舎



※観光踏切、野辺山駅界限



※野辺山駅



※野辺山駅

⑤1 km位鉄道に沿って歩く。恰も平地を歩いているような錯覚する。15時32分、小諸方面の車両と対面する。15時50分、国道141号線に合流する。清里高原観光案内図によると、この境界がJR最高地点(1,375m)とあった。ガスが出で、視界が20m位となる。15時58分、新大門川橋を渡る。その先で長野県から山梨県北杜市となる。16時7分、清里駅まで3 km地点を通過。視界が見えない中、暗中模索で車に用心して進む。16時23分、128歩ある藤沢橋を渡る。16時39分、JR線を跨ぎ、鉄道の左側となる。途中右折したところで若者と対面する。清里駅の道筋をお伺いする。「直進し、突き当りを右折した先に清里駅があります」と教えて頂き、安堵する。私の帽子とバッグを見てお声がかかる。「歩く鉄道作家さんですか。凄いですね」と。「今日は海尻から歩いて来ました。雨で大変でした」。「頑張ってください」と激励のメッセージあり。カッシーチラシをお渡し、お礼を言って別れる。駅に到着するや否やSL蒸気機関が目に入る。清里駅には16時54分到着。日没前に到着できホットする。



※線路に沿って歩く（平原と錯覚）、JR最高地点境界（1,375m）



※国道141号に合流、ガスにより視界ぼやける！！



※清里駅まで3 km、JR線を跨ぐ、間もなく清里駅



※清里駅

⑥清里館には17時15分到着。アットホームな宿で、奥さまと色々世間話をする機会を得る。その後、雨でびしょびしょになったズボン、リュックを手当。そして、冷えた体を湯船で温め、夕食となる。私を含め、5人の宿泊者がいた。奥様や宿泊者とも世間話をする機会を得る。その中で、このホテルの息子さんが某テレビ局のアナウンサーであるとの情報を聞いてビックリ。写真を見せてもらい、見覚えのあるアナウンサーであった。世間は非常に狭いと痛感。また、「人との出会いは神秘的で不思議なものである」と感じた楽しいひと時であった。



※清里駅、清里館



※清里館で乾杯！！

第5節 最終日：10月14日（木）：清里～小淵沢 晴れ

2021年10月14日（木）晴れ、小海線の仕上げの旅は、清里駅から小淵沢駅までの営業キロ17.5kmに挑戦する。本日もリュックを背負っての山間の歩きとなるが、天気もよくかつ下り坂であったので、二日目、三日目に比べれば、非常に穏やかな気分で臨むことができた。私の”こだわり鉄道つたい歩き”の九カ条に登場する「[先憂後楽の考え方](#)」に準拠した。その仕上げのため、清里館でゆっくり朝風呂に入り、美味しい朝食を頂いて、本日の行程に臨むことができる。





※お世話になりました清里館！！

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

清里（9:00）～甲斐大泉（11:07）～甲斐小泉（12:45）～小淵沢（15:09）

①8時55分、清里館をチェックアウトし、清里駅（9時）に立ち寄り、駅前の風景をデジカメに収めてから、甲斐大泉駅を目指すことにする。



※清里駅前



※清里駅

9時25分、清里寮踏切を横切り、県道28号線に出る。9時45分、大泉7kmの道路標識前を通過。9時48分、JR線を跨ぎ鉄道の左側となる。9時58分、標高1200m標識前を通過。県道に沿って独立した遊歩道がある。ヒヤリとした気持ちのいい散歩道であった。この遊歩道は、10時20分到着の八ヶ岳高原大橋(845歩)まで五月雨式で続く。今は北杜市であるが、かつては高根町・大泉町が存在していたのだろう。この橋を渡ると、高根町から大泉町となった。10時35分、白樺でできた柵が続く道筋を歩く。10時46分、甲斐大泉駅への交差点に到達。ここから上り坂となる。10時54分、上着を脱ぐ。甲斐大泉駅には11時7分到着。



※清里寮踏切、大泉への路



※標高 1200m地点、遊歩道



※八ヶ岳高原大橋、白樺の柵、小泉駅と大泉駅を記した道路標識



※甲斐大泉駅



※甲斐大泉駅、心地よい道筋（甲斐小泉駅への路）

②甲斐大泉駅から甲斐小泉駅にかけては、別荘が多い心地よい森林地帯を歩く。12時32分、年配の自転車野郎と対面する。フコク生命時代、よく聞いた”泉郷”という地名を通過。また、不動産会社の掲示板には別荘売り広告が多々あった。12時38分、右にJR線が見える。平山郁夫シルクロード美術館に面して甲斐小泉駅があった。それにしても、甲斐大泉駅から甲斐小泉駅までの営業キロ5.1kmは心地よいコースであった。少し時間に余裕があったので、平山郁夫シルクロード美術館で20分位鑑賞する機会を得る。色んな作品の中で、山陽本線で立ち寄った“瀬戸内しまなみ海道”の絵画が強く印象に残った。恰も写真のようであった。



※薪製造現場、甲斐小泉駅



※甲斐小泉駅、平山郁夫シルクロード美術館



※平山郁夫シルクロード美術館とその作品

③この美術館で、八ヶ岳信玄捧道ウォーキングマップを頂く。小淵沢駅への道筋、このマップ従ってチャレンジしようとするが、初期段階で曲がる路筋を通り過ぎ進行したため、時間の関係から断念する。八ヶ岳を見ながら、平山郁夫通りを淡々と歩く。13時59分、中込橋を渡る。14時13分、八ヶ岳広域農道を歩く。14時37分、フィリア美術館の辺りで、運よく地元の人に対面でき、迷うことなくスムーズに小淵沢駅を目指すことができる。



※小淵沢駅への路

14時48分、中央自動車道下を潜る。ここから、小淵沢の街並みが広がる。やがて中央本線の線路沿いにやって来る。15時、中央本線を巨魔跨線橋により跨ぐ。橋を渡ると巨魔神社があった。この神社に「[小海線の旅が何とか無事完了できそうである](#)」ことに対し感謝を込めて参拝する。小淵沢駅を背後にした数頭の馬がいるスポットに15時8分到着。そして、終着駅小淵沢駅には15時9分到着。今回も[全駅舎立ち寄りに基づき無事有言実行でき](#)、感動と達成感で一杯となる。同時に天や神そして地元の人などに感謝の気持ちで一杯となる。



※巨魔神社、馬のいるスポット



※小淵沢駅、喫茶店で一服

④あずさ 44 号（小淵沢発 16 時 36 分）まで 1 時間半位あったので、お土産をゆっくり買えたと同時に駅前の喫茶店でゆっくり寛げた。そして、売店にてあずさ内で祝杯するための駅弁やビールなどを買って、家路の途につく。待ち時間を利用し、SMS や SNS で小海線無事踏破の感動シーンを発信する。沢山の方から素晴らしいメッセージを頂き感無量となる。旅は良いものである。完



※小淵沢駅、あずさ 44 号



※祝杯、遠くに富士山！！